

令和2年度 秋田県生涯学習センター第1回運営委員会  
議事録

令和2年7月14日（火）  
13時30分から15時  
生涯学習センター・第1研修室

（1）前年度の事業報告と今年度の主な事業計画について

- ・前年度の事業実績について
- ・今年度の生涯学習センター事業の概要について
- ・今年度の事業計画について

（2）その他

(1) 前年度の事業報告と今年度の主な事業計画について  
・前年度の事業実績について（報告）

【総務班】

・利用実績（2019年度）

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 利用者    | 138,476人（2018年度実績：132,066人　＋6,410人） |
| 開館日数   | 299日（2018年度実績：307日　－8日）             |
| 平均人数／日 | 463人（2018年度実績：430人　＋33人）            |
| 貸館稼働率  | 45.5%（2018年度実績：47.8%　－2.3%）         |

・利用種別

|    |                      |          |
|----|----------------------|----------|
| 事業 | ・主催事業等（あきたスマートカレッジ等） | 94,006人  |
|    | ・ホール利用等（1階ホール展示等）    | 9,804人   |
| 貸館 | ・生涯学習に関する事業を行う団体     | 15,393人  |
|    | ・それ以外の団体             | 19,273人  |
| 合計 |                      | 138,476人 |

【学習事業班】

・「要覧」について

表紙にある以下の図は、当センターの基本方針（＝有機的な連携）を図示したもの。当センターは、有機的にネットワークを繋いでいけるような存在でありたいと考えており、今年度はそれを【事業推進テーマ】として明記した。

センターの3機能



【事業推進テーマ】

～3機能の有機的ネットワークによる地域及び現代的課題解決へのアプローチ～

・「2020事業計画・2019事業実績」について

- ・2年分の計画と実績をまとめて確認することができる形式になっている。
- ・目次の裏面に「令和2年度 秋田県生涯学習センターの事業」という図を載せたが、これは当センターが持つ「シンクタンク機能」「研修・人材育成機能」「学習活動推進・情報発信機能」の内容を具体的に書いたものとなる。
- ・枠に囲まれチェックが入っているものが昨年度の事業実績、チェックが入っていないものが今年度の事業計画となる。

## 【学習事業班】説明

### 1 シンクタンク機能

#### (1) 調査研究の推進・充実

- ・「障害者の生涯学習」に関する調査研究への取組
  - ・昨年度から実施している。
  - ・県の教育における研究課題であり、当センターは調査研究部門を担当。
  - ・回収率56%：集計のダイジェスト版は当センターWebページに掲載。
- ・「家庭教育に関する調査」
  - ・5～6年の期間をおいて調査を実施している。
  - ・この結果を基に、研修計画の立案や今後の講座の方針等を決めている。
- ・「社会教育調査」
  - ・市町村の状況を調査するもので、毎年実施している。

↓

これらの調査が、生涯学習センターの存在意義について考える機会になった。特に、健常者と障害者とを繋ぐ場を作る必要性を実感したため、昨年度、当センター中2階に「障害者スポーツコーナー」を設置した。現在は、秋田県バドミントン協会からバドミントン用コートの提供を受け、従来実施していたボッチャや卓球バレーに加え、バドミントンコートとしても利用できるようになった。このように、調査研究で得た知見を即時、他の活動に繋げていきたいと考えている。

#### (2) 生涯学習情報提供の充実

- ・秋田県生涯学習支援システムを通じて生涯学習に関する情報の提供を行っており、2019年度は2,785件の情報入力ができた。

#### (3) 運営委員会の開催

- ・2019年度より、年2回実施することとした。

### 2 研修・人材育成機能

#### (1) 研修事業

- ・市町村の職員や市町村社会教育関係職員等を対象とした研修を実施しており、2019年度からは現代的課題に対応すべく、防災関係の研修も含めて行うようになった。
- ・家庭教育支援指導者等研修も継続実施している。

#### (2) オーダーメイド型社会教育主事派遣事業

- ・市町村の課題解決に向け、当センターが社会教育主事を派遣し、課題解決に向けて一緒に協働して取り組む事業であり、昨年度から新規事業として実施している。
- ・初年度は鹿角市、北秋田市、仙北市、藤里町、羽後町、ゆり支援学校の5市町・1県立学校がエントリーし、協働して課題解決に取り組んだ。今年度も継続実施する。

#### (3) 生涯学習団体への支援

- ・資料記載の団体に対し支援を行ってきた。

### 3 学習活動推進・情報発信機能

#### (1) あきたスマートカレッジ

- ・2019年度は開講記念講演を始めて鼎談の形で実施した。
- ・「障害者の生涯学習」との関連が強い講座や、現代的な課題の解決に向けた講座も実施した。

#### (2) 生涯学習センターだより・情報誌「虹色」の発行

#### (3) 展示ホールでの展示の実施

#### (4) 相談業務の実施（ブルーの窓口）

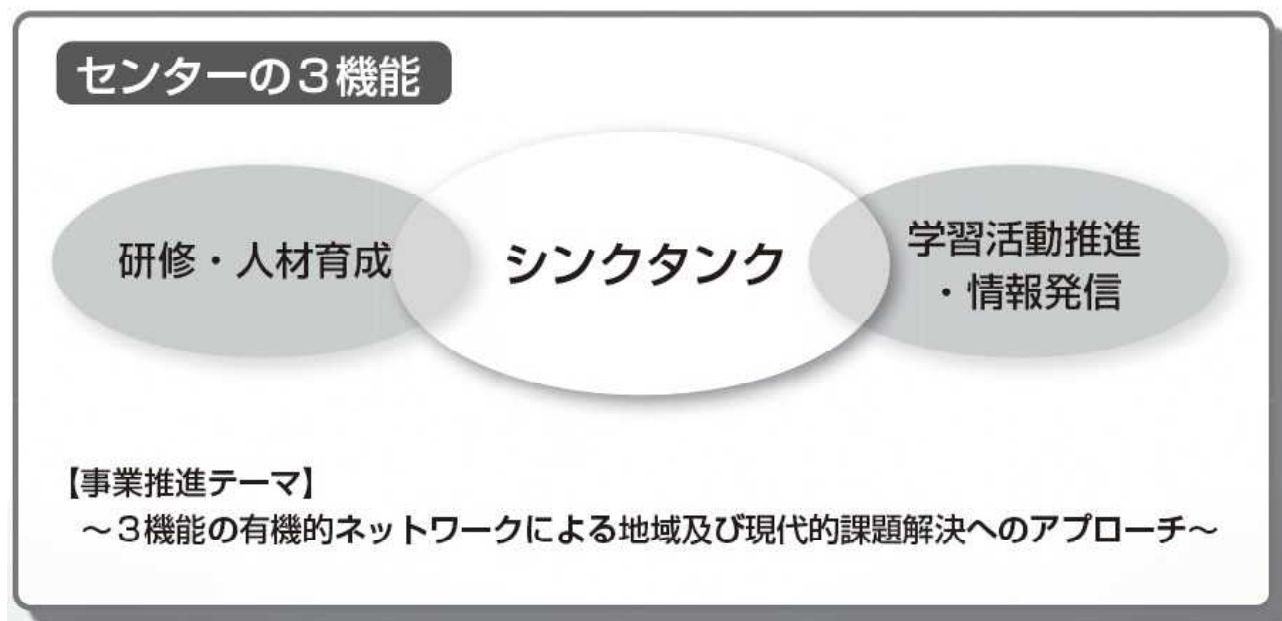
#### (5) 県庁出前講座の実施

#### (6) 視聴覚教育の充実

- ・自作視聴覚教材交流発表会：2019年度は16点の応募があり盛況だった。

-----

- (1) 前年度の事業報告と今年度の主な事業計画について  
・今年度の生涯学習センター事業の概要について



【全般】

①シンクタンク機能

→今年度も引き続き「障害者の生涯学習」に関する調査研究を継続。

- ・関係団体へのヒアリング調査
- ・特別支援学校との連携強化
- ・障害者スポーツコーナーや防災コーナーの充実

②研修・人材育成機能

- ・オーダーメイド型社会教育主事派遣事業を積極的に推進

→今年度は、昨年度実施した鹿角市、北秋田市、仙北市、藤里町、羽後町、ゆり支援学校の5市町・1県立学校に加え、湯沢市・八郎潟町を加えた7市町・1県立学校で実施することになった。6月25日には当センターから4名が参加し、鹿角市で3時間の打ち合わせを行った。この打ち合わせには生涯学習・社会教育担当職員に加え、学校教育関係の職員も参加し、充実したものとなった。

- ・新任職員研修

→今年度はYouTubeの限定公開を利用したオンライン研修となった。今年度の受講者は78名で、昨年度の倍近い数となった。

- ・公民館等職員専門研修（7月8日実施）

→現代的な課題にマッチした（コロナ禍における避難所運営について）こともあり、メディアに大きく取り上げられた。

③学習活動推進・情報発信機能

- ・あきたスマートカレッジ

→新型コロナウイルス感染拡大の影響を一番強く受けた。総合開講式は実施できなかったが、「開講宣言」を行った。なお、今後は予定通りに講座を実施することが可能と考えている。延期した講座については、実施日程の調

整がついたら発表する。

#### ④その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、貸館は研修室等の定員の半分程度を上限として運営している。また、使用後は、職員による消毒作業を実施している。
- ・職員の在宅勤務の奨励
- ・生涯学習センターの開館状況について
  - ～4/20 事前予約の団体のみ利用可
  - ～5月末 新規の予約受付中止
  - 5/12～ 開館
  - 6/2～ 1階学習スペースと中2階交流ホールの利用再開
  - 7/1～ 1階学習スペースと中2階交流ホール利用時の連絡先届出の要請開始
  - 7/10～ 「秋田県版新型コロナ安心システム」の運用開始

---

#### 【総務班】

- ・貸館
  - ・利用者数目標
    - 2019年度：13万人
    - 2020年度：6～7万人の利用を目標にする方向で検討中（研修室等利用可能人数が、定員の50%で運用中のため）
  - ・三密を避けること、咳エチケット等注意をお願いしている。
- ・修繕
  - ・令和2～4年度の3年計画で、館内照明をLEDに改修する計画を進めている。
  - ・その他については、様子を見ながら検討していく。

#### 【学習事業班】

- ・特に力を入れて取り組みたいこと：  
新型コロナウイルスの影響で、かなりの計画変更を余儀なくされている。  
しかし、利用してもらうために工夫して実施できるようにした。  
↓
  - ・計画変更したもののほとんどは要覧作成に間に合ったため、要覧に記載されているのは変更後の内容となる（あきたスマートカレッジを除く）
  - ・あきたスマートカレッジについては、県外から講師を呼んでいる講座もあるため、日程は未確定の部分もある。できるだけ延期講座は今年度中の実施で考えているが、来年度への変更を余儀なくされる講座も出てくるだろう。

#### ①シンクタンク機能

##### （1）調査研究の推進・充実

- ・「障害者の生涯学習」に関する調査研究への取組  
→ヒアリング調査に力点を置き、実態把握に努めたい。
- ・「家庭教育に関する調査」  
→もっと掘り下げた調査・分析をしたいと考えている。

#### ②研修・人材育成機能

##### （1）研修事業

- ・新任職員研修：思いのほか好評だった（旅費や業務の関係で、例年なら参加

できなかったであろう市町村職員からの申込が多かった)

- ・ 公民館等職員専門研修①
  - ・ 1回でわかるコミュニティー・スクール研修
    - 本来であれば各地の学校で開催する予定だった地域活性化研修を取りやめる代わりに新設した。生涯学習センターを会場に実施する予定。
  - ・ 家庭教育支援指導者等研修：回数を減らし、内容を精選した。
  - ・ 生涯学習センター開所40周年記念「秋田県生涯学習・社会教育研究大会」
    - 11月3日に必ず開催したい。状況によってはライブ配信も考えている。
- (2) 市町村等の課題解決に向けた取組への支援
- ・ オーダーメイド型社会教育主事派遣事業
  - ・ 未就学児の親子を対象としたICT研修（形態を工夫して実施予定）
  - ・ 「障害者の生涯学習」に関する研修等の実施
- (3) 生涯学習団体への支援
- ・ センター交流発表会を12月6日（日）に実施予定。

### ③学習活動推進・情報発信機能

- (1) あきたスマートカレッジ
  - (2) 生涯学習センターだより・情報誌「虹色」の発行：4月は発行できず
  - (3) 展示ホールでの展示の実施
  - (4) 相談業務の実施（ブルーの窓口）
  - (5) 県庁出前講座の実施
  - (6) 視聴覚教育の充実：自作視聴覚教材交流発表会の実施
-

## (2) その他（質疑応答・感想）

### A 委員

- ・5月に行われたYouTubeを利用したオンライン研修について、このような取り組みが実施できたらいいな、と思ったりしていた。今後、最初からオンラインで公民館等と接続するなど、より多くの人が講座や研修に参加できる仕組みがあると嬉しいと感じた。

### 学習事業班長

- ・今回のオンライン研修は大変反響が大きく、また何度も視聴してくれた方もいる。ある市町村では、会議室に課長以下多数の職員が参集し、プロジェクターで大きく映しながら視聴したという話を聞いた。また、仕事の関係で勤務時間内に視聴することができなかった職員は、帰宅後に自宅で視聴した職員もいたとのこと。場所や時間帯を選ばずに視聴できたことがよかったのではないだろうか。
- ・今後、このような形を取り入れていくことに挑戦したいと考えている。

### 職員Ⅰ

- ・動画の配信については、当初はライブ配信を考えていた。しかし、視聴する側での設定等、手間がかかることがわかった。そのため、録画した動画を配信する方が繰り返し視聴可能であろうと考え、YouTubeによる限定配信という形を取った。
- ・当センター職員向けのZoom研修も実施した。Zoomではグループワークも可能なため、グループワークが必要な研修はZoomを利用して実施することもできている。
- ・ライブ配信については、11月の「秋田県生涯学習・社会教育研究大会」をCNAさんの協力を得て、ライブ配信したいと考えている。見逃した人への配慮も含めて、今後考えていきたい。

### B 委員

- ・職員研修にYouTubeは利用できると考える。
- ・広く県民の皆さんが参加できるような講座を、対面がいいのかオンラインがいいのかも含め、精査していく方がいいのではないかな。

### 学習事業班長

- ・双方向性が必要なら、対面やZoomを利用した研修が有効と考える。
- ・問題はハード面と考える。個人での操作ができない場合なら、どこかに集まってサテライト教室のような形式でできるかもしれない。
- ・一方向に情報を伝えるのであればYouTube、双方向ならZoom・・・のように、状況に応じて選択できればいいのではないかな。

### B 委員

- ・県民にどう情報を提供するのかについて模索している姿勢を伺い知ることができ、よかった。

### A 委員

- ・YouTubeやオンライン等については、「機器をいじれません」という人もいますので、操作方法を伝える講座もあっていいのではないかな。

### 職員Ⅰ

- ・11月の「秋田県生涯学習・社会教育研究大会」の際には、視聴する人がすべ

てYouTubeのライブ配信の準備ができるとは思っていないので、全市町村にサテライト会場を設けることを考えている。その上で、「し～なアプリ」の利用等で補っていきたい。

- ・ 機器を扱う際の不安な気持ちを取り除くための講座についても考えている。先日の調査研究委員会の際も、委員にZoomの利用方法を伝授したこともあった。
- ・ 様々な方法を通じて、取りこぼしを少なくしていきたい。

#### 委員長

- ・ 「秋田県生涯学習・社会教育研究大会」の内容等はどうなっているか。

#### 学習事業班長

- ・ 今年度は生涯学習奨励員協議会設立45周年でもあるので、「秋田県生涯学習・社会教育研究大会」と併せて生涯学習奨励員に集まってもらって勉強する機会を設けられれば・・・と考えていたが、新型コロナウイルスの感染拡大という状況下、多くの参加者を得ての実施はできなくなった。
- ・ 研究大会については、「東北の生涯学習のこれまでと今後」について話ができる方に声をかけている。具体的には原先生、岩手大学の新妻先生、東北大学の佐藤智子先生にお願いしている。今後を見据え、社会教育の在り方についてざっくばらんに話をしてもらいたいと考えている。

#### C 委員

- ・ ライブ配信や録画したものを編集し放送する等の方法については、当社では「し～なアプリ」を通じてリアルタイムで道路情報を伝えたり、収録した番組を提供したりするなどの経験の蓄積がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大が続いていたころ、生活習慣の乱れが問題と思ったため、毎週・同じ時間帯に生放送・生配信を行った。「人間らしい生活」を送ることを助ける点にも、生配信の意義があると考えている。
- ・ ネット上での動画配信についても、様々なことに取り組んでももらいたいと考えている。
- ・ ニーズに合わせて視聴できるようなパターンを作りたいと考えているので、今後も連携をお願いしたい。

#### D 委員

- ・ あきたスマートカレッジでは、市町村ではなかなか実施できないようなことを行っているが、コロナ禍で講座の運営等に掛かるお金はどうなっているのか。

#### 学習事業班長

- ・ 現代的・地域的課題以外の、趣味・教養的な講座は有料になっている。
- ・ 現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、屋内で開催される講座に定員の制限がかかっている。そのため、申し込むことができる人数（＝分母）そのものが小さくなっており、そこから講師の旅費や謝金を捻出せざるを得ない状況となっている。
- ・ 財政的には火の車の状態だが、削減できるところは削減しつつ、学習機会はしっかりと確保したいと考えている。

#### E 委員

- ・ 8月～10月にかけて、放課後児童相談員の研修のため生涯学習センターを借りているが、人数はすでに100人を超えている。また、首都圏にいる秋田県出身の30～40歳代の人々から、秋田県に戻ろうかという相談も受けたりしてい

る。コロナ禍は、秋田県に人が戻ってくるチャンスと捉えることもできる。「秋田で学ぶ」という時、生涯学習センターの存在はとても大事だと思う。

#### F 委員

- ・高齢者向け事業の運営方法に悩んでいる。オンラインでの講座も考えているが、受講者の平均年齢は70代。「Zoom等を使って参加しますか？」との質問に対し、「外に出て人と会って話ができるから参加するんだ」と答える受講者もいる。
- ・今まで対面・双方向で行っていたが、新聞を作成し配付するという方法も考えられる。しかし、それではやりとりが一方通行になったり、反応に時間差が出てしまうことに悩んでいる。何か知恵を拝借できればと思っている。

#### 学習事業班長

- ・新任職員研修の際、受講者にアンケートを記入してもらったが、そこに書かれていたことについて返信したり訪問した際に話したりして、双方向の交流に繋がっていったことがあった。
- ・紙を使ってのやりとりは一方通行のように見えるが、それを通じてのやりとりを重ねることで双方向の交流に繋がっていくのではないかな。

#### G 委員

- ・インターネットに遠い存在の方も多いが、今回のコロナ禍とそれに関する動きを見ると、インターネットと切り離して生きていくことはもはやできない。三密を避けながら、「学ぶ楽しさ」をどう伝えるかが大事なのではないだろうか。
- ・一人一人が心を満たしていくには、分散型学習の形態を確立していくことも必要だと考える。そのため、生涯学習センターと協力して取り組んでいくことができればと思う。